

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092800145		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで中間		
所在地	〒809-0003 福岡県中間市上底井野1675番地1 Tel 093-246-5515		
自己評価作成日	令和04年01月09日	評価結果確定日	令和04年03月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和04年02月07日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和2年4月に開設したグループホームです。 利用者が日中集うリビングには掃き出しの大きな窓があり、南向きで日当たりもよく、松やつつじ、金木犀など、四季折々の日本庭園を望むことができます。 「看護小規模多機能型居宅介護 りんどう」を併設し、グループホーム内にも看護職員を配置し、利用者様の日々の健康不安や心身の異変などに、手厚い対応を行っています。</p> <p>当法人の理念は、「ぬくもり、やさしさ、安心」です。 利用者様中心のケアを、職員全員でご提供できるように努めていきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「かえで中間」は松や金木犀、つつじが見事な日本庭園の中に、看護小規模多機能型居宅介護と併設で、令和2年4月に開設した定員9名のグループホームである。「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱とし、利用者が重度化しても最後まで安心して生活できる「終の棲家」である。看護師が常勤し、提携医療機関医師の定期往診が整い、利用者の小さな変化も見逃さず、24時間安心して任せられる医療体制が整っている。新鮮な食材を取り寄せ、職員が交代で作る手料理は、味や彩り、盛り付けに拘り、利用者と職員が談笑しながら食事する様子は楽しそうに食欲増進に繋がっている。コロナ感染症予防対策で、外出や地域交流が休止状態であるが、日本庭園の中を散歩したり、ドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。職員は、優しく利用者に話しかけ、利用者が明るい笑顔を取り戻す様子を見守る家族からは、喜びと感謝の気持ちに包まれ、利用者や家族から高い評価を得ているグループホーム「かえで中間」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心」を理念に、職員は介護経験が有る無しに関わらず、御利用者様と家族の様な繋がりを持つことが出来るケアを中心に育むよう心掛けている	介護理念を見やすい場所に掲示し、職員会議や朝の申し送り時に理念(ぬくもり、やさしさ、安心)の意義や目的を職員間で話し合い理解して、職員一人ひとりが常に理念を意識して、利用者本位の介護サービスに、職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加したり、組内で定期的に発行される広報誌をいただいたり、地元へ根付いた生活の場所として交流を目指している。現在はコロナ禍の為、地域のイベントや行事の中止により交流の機会が激減している	コロナ禍の中で、地域の行事や活動に参加する機会が少なくなっているが、地域の広報誌で地域情報を得て、参加出来る行事には参加している。地域住民との交流を図るため、買い物や神社に出かけ挨拶や立ち話を通して、地域の方と交流出来る関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天候のいいときは、利用者とともに近隣を散歩し、お宮参りや近所の店への買い物など、日常生活を行うことで、地元の方も認知症の理解を深めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催を延期している中、議員の方々に持ち回り資料を配布し、地元自治区会と会報や施設行事だより等で現在のグループホームかえて中間の現状報告としている	2ヶ月毎にホームの運営や取り組み、利用者情報を記載した議事録を運営推進会議委員に配布し、電話等で地域情報を聴き取っている。運営推進会議の発展が、ホームの成長に繋がるので、今後は、参加委員の増員を図っていくことを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とこまめに連絡を取ることで、行政独自のサービスや、他の事業所のサービスやケアの現状を知ることができる	コロナ対策以前は、運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解して、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係が築かれている。管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政に報告し、介護の疑問点や困難事例等の相談を行い行政と連携を図っているが、現在はコロナ禍の中で自粛している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドの4点柵使用や車いすの誤った使用は、身体拘束にあたる事を、機会があるたびに全職員の申し送りの中で再確認している 玄関と門は、防犯上夜勤者のみになった時点で施錠し、昼間は常に開錠している	職員会議や内部研修の中で身体拘束の職員研修を実施し、身体拘束が利用者にも与える影響を職員間で話し合い、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動の制圧に繋がる声掛け、過剰な服薬による心身の自由を奪うなど、知っておくべき虐待を、全職員が申し送りや職員同士の話し合い(社内研修)を通して認識出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括ケア研修等行政機関主催の研修会において、一人一人が守られるべき日常生活を送る権利について、学び、カンファレンスの場等で施設内職員への啓蒙に努めるようにしている	権利擁護の制度について、職員会議や内部研修会の中で制度の研修を行い、職員はある程度理解が来ている。日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば分かり易く説明し、関係機関に相談して利用者の権利が損なわれないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす前に、現在の利用者の状態、症状を話し合い、グループホームのことを十分にご理解していただけるよう利用者及びご家族に館内の見学と案内、説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営やサービスに関する貴重な意見として、サービス提供時に何う利用者の発言と、ご家族からの面会時等に何う施設への要望や質問など、職員内でまず検討し、必要に応じて直接、もしくは書面にて共有、告知するようにしている	職員は、ホームの日常生活の中で利用者の思いや意向を把握し、家族面会時に利用者の近況や健康状態、希望等を報告し、家族からは、意見や要望、気になる事等を聴き取り、ホーム運営や介護計画作成、利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出勤日は必ず職員に声をかけ、些細なことでも意見や要望を表出しやすい雰囲気作りに努めている	職員会議を月1回定期的に開催し、職員が話し易い雰囲気の中で、意見や要望、提案等を引き出し、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。毎日の申し送り時に職員間で気付きや心配な事を話し合い、管理者に相談して解決に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の経験やスキル、家庭の事情等を把握し、職員が働きやすい状況になるよう、適宜勤務状況を確認し、話し合いながら条件の見直しを行っている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、20代から60代まで、幅広い年齢層の職員が在籍しており、有資格者、無資格者、看護職員、介護職員が、協力しながら勤務にあたっている職員採用は、年齢や性格、経験や資格の有無で判別することはない	職員の募集は年齢や性別、経験等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先し、採用後は外部や内部の研修に参加して、介護技術の向上に取り組んでいる。また、管理者は、職員の特長や能力を把握して、適材適所に人員配置し働き易い職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重や接遇の大切さが、全職員の共通の認識になるよう、不定期のミーティングや、申し送りノートを通して、共有している	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や朝の申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱として日常介護の中で反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のもと、社外の研修より社内の研修やミーティングを中心に、一人一人の職歴、経験を活かしながら全員のケア力が向上するように努める		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の問い合わせや入所希望の見学を通じて他の事業所との情報交換を行い、自施設だけでなく地域全体の介護やサービスを把握し、互いに向上するように努める		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴や既往歴、生きがいや嗜好をうかがいながら、現在の生活において、困難になっていることや心配や不安に感じていることを把握するようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点でご家族から見たご本人の不自由なこと、生活において困難なこと、家族にとっての不安な点や今後の生活に対する指針などをうかがうようにする		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に伺った不自由なことや困難なことへの支援をいくつか提案し、まず一番に解決に取り掛かるための優先順位をつけ、多角的な視点で対応を図るようにする		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームで暮らす時間を有意義に過ごしていただける為の配慮や気づきができるか、その気持ちを常に念頭に置き、職員もその生活空間においては「ともに暮らす者」という視点で接するように心がける		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が困難な時は電話対応や手紙での交流を支援し、本人と家族としての築いた関係に配慮する様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や旧友などの電話や訪問に関しては、ご家族の承諾を得て、繋ぐようにしている。 (現在コロナ禍のため、原則的にキーパーソン以外の面会制限を設けている)	コロナ対策の中で、日常の面会や外出が限定されているので、電話や事業所便りで利用者の状況を家族に報告し、家族の質問や要望に丁寧に答えている。また、ホームで仲良くなった利用者同士の関係や職員との信頼関係も大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う他の利用者とともに食事をしたりレクリエーションが楽しめるよう、一人一人の性格や生活歴などを把握した上で、テーブルやソファでの着席などに配慮し、日常生活を送れるような空間づくりに努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用途中入院治療が必要な方は、随時状況を確認し、退院後も医療支援が必要な方に関しては、病院、ご家族と相談の上、ご希望に応じて併設の看護小規模多機能型居宅介護施設の利用をご案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを通して、一人一人の生活リズムや嗜好を把握し、職員で共有できるように努める 意思の表出が困難な方は、表情や雰囲気等を察知したり、ご家族に意見をうかがうようにしている	ホームの暮らしの中から利用者の思いや意向を把握し、実現に向けて取り組んでいる。意志を伝えることが難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者に優しく寄り添い話しかけ、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴の違いを念頭に、職員は本人やご家族からの情報や、以前利用していた介護サービスや入院・通院治療をしていた病院関係などの情報を共有する		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の情報データの把握とともに、現時点での本人の生活に必要な支援を過不足なく把握するため、グループホームでの生活状態や心身状態に対しアセスメントを実施するようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍の為、多職種がかかわる担当者会議の開催が困難になっており、日ごろの気づきや本人の発言の申し送りや病院受診時の情報、ご家族の来所時の話をまとめ、ケアプランに生かすようにしている	担当職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。利用者の重度化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活支援の中で気づいた変化や本人の表情や発言を、申し送りノートへの記載などを利用し、職員間で共有するとともに、これからのケアプランに活かし、アセスメントからのケアの見直しに繋げるようにする		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて物品をご家族に了承を得て代理購入したり、病院受診後のご家族への報告など、必要なサービスを常に提供できるように努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社の参拝、同法人内の他の事業所へのドライブなど、コロナ禍においても心身の活気につながる行事を取り入れるようにしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診同行、必要に応じての専門科の紹介、希望によってはホームドクターの往診支援など、個々の心身の健康維持を目指している	入居前に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。以前からのかかりつけ医の受診は、職員が対応し結果を家族に報告している。ホームドクターによる定期的な往診と看護師、介護職員が連携し、安心して任せられる体制が整っている。併設の看護小規模多機能の協力で24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が2名配置され、個々の服薬種類や身体の現状、病院受診などを把握している 骨粗しょう症の治療に必要な自己注射の実施は、看護師が対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに病院に情報提供を行い、ご家族だけでは困難な支援を行うようにしている 入院中も定期的に本人の回復状況を病院に確認し、退院に向けての展望や問題点などを把握するようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入退院を繰り返して重度化がみられる場合には、ご家族と早めに話し合いの場を設け、医療ニーズに応じて併設している看多機施設への利用変更を提案し、希望があれば終末期までの繋がるケアを支援している	ターミナルケアについて、契約時にホームで出来る支援を利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、併設の看護小規模多機能への転居も視野に入れて家族と話し合い、利用者の終末期が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で少しずつ学ぶ機会を作り、夜勤・日勤・常勤・非常勤に関わらず、全員が急変時の対応ができるようにしたい		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害などの急変時に向け、水と食料の備蓄を行っている 夜間帯の避難訓練や、違うルートでの避難等、今後実施予定。コロナ禍により具体的な活動に至っていないが、地区の区長や地元の有識者を通じて、近隣住民との協力体制を再確認する	非常災害を想定した避難訓練を実施し、利用者全員が安全に避難場所に誘導出来る体制を目指している。非常災害を想定して食料や飲料水、非常用備品の備蓄を用意している。近隣住民と防災協力体制の構築を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開所時から、利用者も職員も一人一人のあるべき人権を尊重できるよう、日々の申し送りなどで、職員全員に接遇への姿勢を培うように心がけている	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方について、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮したサービス提供に取り組んでいる。また、言葉遣いに注意し、あからさまな介護にならない支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意思の表出が可能な限り、本人が選択できる生活のゆとりを提供できるよう心掛けている 認知症が深くなり、自分の意思が表出できない方は、状況を踏まえて健康維持と安全を第一の支援を検討する		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンや嗜好を考慮し、就寝、起床の時間を画一化せず不定期で見直しを実施。日中も、自室でのテレビ鑑賞や休息、ホール内の散歩など、できる限りその人に合った生活支援を目指している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診時などの外出時には、季節感のある少しおしゃれな服を選ぶようにしている。 毎朝、起床時のモーニングケアにて、髪を整えたり、定期的に来る訪問理美容の活用や、ご家族が用意したご本人に合う洋服の身だしなみを支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスの良いメニューを念頭に、個人個人の好みを考慮し、食事を提供している。お誕生会や、季節行事などの際には特別な献立を実施している・芋づるを利用者、職員ともに処理したり、食事レクの一環で近所のたこ焼き屋に利用者と一緒に歩いて購入することがある	利用者が楽しみにしている食事は、職員が交代で調理し、利用者の好みや栄養バランス、形状に配慮して食べやすい料理を提供し、楽しい雰囲気の中で、利用者の食欲増進に繋げ健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量を記録に残しチェックしている 摂取時間も検討し、生活リズムに合わせて提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でケアができる方は、洗面所で椅子に腰かけたり立位で、見守りや一部介助を要する利用者は職員立ち合いにて、主に夕食後に口腔ケアを実施している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜の排泄状況を記録に残し、排尿・排便パターンに変化がないか確認する 必要に応じて服薬にて調整を検討する時もあるが、過剰な干渉は避け、できる限りタイミングを計ってのトイレ誘導や排せつ用品の選択を行うようにしている	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は、利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導やおムツ、リハビリパンツ、パットを利用者に合わせて使用し、快適な暮らしの支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢を繰り返すときは、排せつ記録を確認し、消化のいい食事形態と、適した水分摂取を提供するようにしている 午前8時と午後3時、軽運動を実施し、できる限り自然排便ができるように努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や病院受診などを考慮し、気持ちよくゆとりをもって入浴できるように設定しているため、週2回の入浴を実施し、職員と利用者が密にコミュニケーションをとりながら個浴で楽しい時間を心がけている	入浴は利用者の希望や体調に合わせて週2回支援し、湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者と職員が一对一で会話できる楽しい時間になる様に取り組んでいる。入浴が困難な利用者は、清拭や足浴に変更し、清潔保持と健康チェックが出来るように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に適した休息を提供するために、起床・就寝の時間を一律にせず、生活状況に応じて昼の休息や、季節の寝衣、寝具の入れ替えや衛生保持、居室の温度管理の調整を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師が中心となって、服薬管理や個々の体調変化からくる与薬の調整を行っている 薬の効能や副作用については、社内研修などで知識を深めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや洗濯ものをたたむ様な軽作業と一緒に 行なったり、散歩が日課の方、テレビ番組の懐メロ や唱歌を唄うのが好きな方、居室で一人でテレビを 見たり本を読むのが好きな方など、一人一人の時 間の過ごし方を支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援に努めている。又、普段は行 けないような場所でも、本人の希望を把握し、家 族や地域の人々と協力しながら出かけられるよ うに支援している	感染症予防の観点から、頻繁に外出支援は行っ ていないが、近隣のたこ焼き屋へ散歩がてらの買 物などを実施している また、親族の結婚式や法事への出席など、ご家族 の協力のもと行なっている	コロナ対策以前は、花見やバスハイク、ホーム周辺を 散歩する等、利用者の気分転換に繋げていた。家族 の協力を得て、行きつけの美容院に出かけたり、自 宅に帰る等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援 に取り組んでいたが、現在はコロナ禍の中で自粛し ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	現在、外出が少なくお金を使う機会が無いが、個人 でお金を所持している利用者がいる。また施設預り の本人のお金で、病院受診時に店に寄り、家族へ の贈り物を選んで購入することもある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	電話にてご家族の声が聞きたいとの希望には、す べて対応をしている 知人から定期的に届く手紙や小冊子を心待ちにし ている方もいる		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間空調機能を活用。それ以外に、感染予防の観 点から時々換気を行なっている。玄関や廊下にもエ アコンを設置し、施設内を移動した際、温度差を感じない ようにしている。リビングの掃き出しの窓は南向きで日 当たりもよく、中庭を望む為、松やつつじの木々を眺め ることができる	南向きのリビングルームの窓から、中庭の松やつつ じ、季節の花を眺めながら、季節の変化を利用者の 五感で感じ取っている。建物全館にバリアフリーを設 置し、音や照明、温度や湿度、換気に注意して、利用 者が穏やかに暮らせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	リビングで過ごすときは、窓辺で椅子に座り外を眺 める方や、気の合う方と同じテーブルで談笑する 方、ソファーに座りゆっくりテレビを見たりなど、ひと りひとりが好きなように過ごしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活 かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫を している	本人のADLに合わせてベッドの高さや向きを変えたり、 家で使い慣れた寝具や家具を持ち込んだり、家 族が用意した写真を飾ったりし、できる限り自分の 部屋としてくつろげる空間になるようにしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が慣れ親 しんだ家具や寝具、生活必需品や家族の写真等を持 ち込んで、生活環境が急変しないように配慮し、利用 者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組 み、明るくて清潔な居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	駐車場から施設内まで全てバリアフリーで、トイレや居 室は、全て途中からゆっくり閉まる扉で、勢いよく閉め ても指などを挟まないようになっている 生活の中で移動が困難なところが無いよう手すりを設 置し、玄関やトイレやリビングへの移動を安全にしてい る		